

横浜経済学会・横浜国際経済法学会共催 学術講演会

「法曹の過去、現在、そして未来」

日時 1月12日（水）12時30分～14時30分

場所 経営学部 108 教室（経営学部講義棟 1 号館 1F）

講師 高原将光 氏（弁護士、横浜国立大学国際社会科学研究科教授）

田中誠一 氏（弁護士 [日本・米国ニューヨーク州]、

横浜国立大学国際社会科学研究科客員教授）

中道徹 氏（弁護士、横浜国立大学国際社会科学研究科客員教授）

モデレーター 関心佐子 氏（横浜国立大学国際社会科学研究科准教授）

社会正義の実現は、今も昔も将来も変わらない、法曹（裁判官・検察官・弁護士）の仕事です。

とはいえ、司法改革により法曹人口が増え、法曹のあり方は少しずつ変わってきています。そうしたなか、検察官として27年間、捜査・公判・検察事務官の研修等にも携わってこられた弁護士、国際的な紛争の解決や予防、企業法務など、国内外で活躍されている弁護士、知的財産法といった最新のイノベーションを人々の役に立てている法律システムに詳しい弁護士の方々に、法曹の過去・現在・未来についてお話いただきます。

これから法曹を目指す方や法曹に興味のある方、法曹実務の魅力を聞きに、ぜひご参加ください。

高原 将光

「皮膚の下に脈々と赤い血が流れているのが検察官だ」との研修所教官の言葉で、検察官になることを決めました。

沖縄から札幌までの検察庁で日々犯罪者と向かい合ってきました。

故あって弁護士になりましたが、「皮膚の下に脈々と赤い血が流れている」との言葉は、いつも私の心にあります。

田中 誠一

大学を卒業するとき、指導教官からドイツ法を勉強するように言われましたが、当時の日本の取引相手国は圧倒的に米国でしたし、米国の法への流入には目を見張るものがありましたから、米国の法を学ぶことは楽しいことでした。

今は International というよりも Global というべき時代ですが、各国それぞれの法や弁護士資格はこうした時代にどう対応していけばよいのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

中道 徹

ライト兄弟の飛行機がキティホークの空を飛んだのは、20世紀になって数年後のことです。

現代社会を支えるイノベーションを促進させるのが特許法です。

私は、生物学を学び、その後SEでもあったので、法律家になると、自然、特許関係の実務に入りました。

どんな役に立つのか分かりませんが、ノースカロライナから遠く離れた21世紀の横浜から、皆さんが飛び立つ手助けとなれればと考えています。